

前立腺肥大症に対する低侵襲手術を開始しました！

泌尿器科では脊髄損傷、脳外傷、骨関節疾患、小児神経疾患、神経難病などの患者の尿路管理(下部尿路機能検査や排尿方法の選択)を主に行っており、この分野での症例数は全国有数です。

2022年からは、難治性神経因性膀胱に対するボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法、間質性膀胱炎の診断・治療、2024年からは前立腺肥大症に対する低侵襲手術(MIST)を開始しています。手術の相談、排尿障害の検査等で困りの際はお気軽にご相談ください。

排尿障害に関わる疾患

前立腺肥大症

症状 尿が出づらい・線が細い、尿が出ない、時間がかかる、残尿感がある、夜に何度もトイレに行く、内服治療で症状が改善しない

治療法 経尿道的水蒸気治療 (Rezum)、経尿道的前立腺吊り上げ術 (UroLift)

過活動膀胱・神経因性膀胱

症状 トイレが近い、トイレに行ってもスッキリしない、尿が漏れる、うまくおしっこが出来ない、1回1回の排尿量が少ない、内服治療で症状が改善しない

治療法 ボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法

間質性膀胱炎

症状 尿がたまる痛みを感じる、下腹部の不快感、トイレが近い、膀胱鏡所見・他の疾患がない

治療法 水圧拡張術、ハンナ型間質性膀胱炎手術、ジムソ膀胱内注入療法



その他の対応疾患

- ・脊髄損傷、二分脊椎症、脳疾患、神経難病、末梢神経障害を原因とした排尿障害
- ・障がい者に発症した尿管系の疾患（神経因性膀胱、尿路感染症、膀胱結石）
- ・原因不明の排尿障害の診断
- ・PSA高値に対する前立腺MRI、前立腺針生検（経会陰）

※問欠導尿の指導入院、膀胱瘻造設もご相談ください

予約方法

■予約センター

TEL:046-249-2489

(平日13時～16時15分)

泌尿器外来:月～金の午前中(午後は検査枠です)

※初診時は原則として、問診と検査の予約・説明のみになります

通院が困難であるなど特別な事情がある場合には、初回から必要な検査と診断・説明ができるように予約の配慮をいたします。

「初めての受診。泌尿器科の受診について相談したい」とお伝えください。

アクセス

お車の方

- 新東名「伊勢原大山インター」より約10分
- 東名高速「厚木インター」より約30分
- 本厚木駅周辺から約30分

電車・バスの方

- 小田急小田原線の「本厚木駅」「愛甲石田駅」「伊勢原駅」からバスにて20～30分程度

詳しくはホームページでご確認ください

かなりは 地域連携室 だより



春になると、満開の桜の下でお花見を楽しみながら歩行訓練をしています。

特集

「話す楽しみ」「食べる喜び」を目指す
リハビリテーション「言語科」

2025.4

04

外来診療のご紹介

■予約方法 ■アクセス



Instagram



@kanagawa_reha_hospital

「話す楽しみ」「食べる喜び」を目指すリハビリテーション 「言語科」



神奈川リハビリテーション病院では、共に歩み、チームで支え、安心できるリハビリテーション医療を提供しています。今回は当院の言語科についてご紹介します。

神 奈川リハビリテーション病院の言語科では、日常生活の「話す楽しみ」や「食べる喜び」を取り戻せるよう支援しています。経験豊富なスタッフ10名が小児から成人、高齢の方まで幅広い年齢層の方を対象に、入院患者を中心とした訓練を行っています。

主に、脳血管疾患や脳外傷、脳腫瘍などにおける失語症、構音障害、高次脳機能障害、嚥下障害に対して、能力の回復を目指した訓練を実施しています。訓練は基本的に個室で行い、落ち着いた環境で集中して取り組めるよう配慮しています。

さらに、復職や復学を目指す方の支援にも力を入れています。また、復職に関しては職能科と連携しながら、安心して社会復帰できるようサポートしています。



全 **10** 名のスタッフ
臨床経験 **10** 年以上 **8** 割在籍!

個室訓練室のメリット

- ①信頼関係が構築しやすい
- ②課題に集中できる環境
- ③プライバシーに配慮できる



失語症

言語障害の症状や程度は、一人一人異なるため、個別の訓練プログラムを立て、能力の回復を図っています。また、注意障害や記憶障害などの高次脳機能障害の合併により、症状が複雑化しているケースにも対応しています。

さらに、復職支援を行っていることも当院の特徴です。復職においては、職場の理解が重要なポイントになります。当院では、職場や就労支援施設と必要に応じて面談を実施し、職務内容や働き方の見直しにつながるよう情報提供を行っています。



失語症の復職支援の流れ

入院中の言語訓練

- ・基本的な言語能力を全般的に改善させる
- ・ニュースや新聞記事を使った高度な聞き取りや読みとり
- ・PCやスマートフォンを使った訓練 など

退院前の就労先面談

- ・聴く・話す・読む・書く・計算などの能力について情報提供
- ・職場でのサポート方法を助言 (例: 複雑な内容を覚えておくのが難しい → 指示を文章で伝える など)

退院後の外来継続 (医師の指示による)

復職後のフォロー

職能科によるアフターフォローに必要に応じて介入

嚥下障害

飲み込みの様子や舌の動きなどを詳しく評価し、機能の発達を促す訓練を実施しています。リスク管理や摂食方法の工夫、食形態の変更などを行い、安全に食べられる環境を整えています。乳幼児や意思疎通が難しい小児の嚥下障害にも対応しています。

最近では、磁気刺激装置を使った訓練も取り入れています。電気刺激と比べて痛みや不快感を感じにくい状態で筋肉を収縮させ、嚥下機能の改善を図っています。顎に装置を当てるだけなので、多くの嚥下障害の患者に用いることができます。



小児疾患

失語症のある子どもに対し、現在の能力を評価し、年齢だけでなく個々の能力に応じた段階的な訓練プログラムを実施し、言語機能の改善を目指しています。

さらに復学時には、学校へ言葉や学習面の能力や注意点などを情報提供し、少しでも安心して復学できるように支援しています。

また、言語発達の遅れのある幼児には、絵本の読み聞かせや、おもちゃ遊びを通じて、楽しみながら言語発達を促しています。

